

令和元年度 共創による地域づくり推進協議会【議事要旨】

1. 開催日時 令和元年9月2日（月） 15:30～16:50
2. 開催場所 市役所15階 第5会議室
3. 出席委員 【出席委員8名】
井原委員, 今井委員, 楠下委員, 古賀委員, 永浦委員, 平川委員,
森田委員, 山田委員
4. 傍聴者 なし
5. 議題 (1) 平成30年度の事業実施状況について
(2) 令和元年度の主な事業について
(3) 平成30年度自治協議会・自治会等アンケートについて
(4) 意見・情報交換

6. 議事概要

議題 平成30年度の事業実施状況について

議題 令和元年度の主な事業について

【委員】集合住宅についての取組みの説明があったが、福岡市は集合住宅に住んでいる人の割合が高い方だと思うが、取組みの効果はあるのか。

【事務局】集合住宅については、集合住宅向けの加入促進のチラシ等を作成し配布しており、URについては、入居時の手続きの際に配布してもらっているが、その効果までは検証していない。引き続き、UR等を含め加入促進についての協議を行っていく。

福岡市の場合、7～8割がマンションであり、防災の面でもマンションに特化した手引きの作成や訓練などを行っているので、防災の面でも連携した取組みを進めていきたいと考えている。

議題 平成30年度自治協議会・自治会等アンケートについて

意見等なし

議題 意見・情報交換

【委員】担い手の問題として、自治協議会や自治会等が民生委員の人選を行っている。今年12月の一斉改選では4月から人選を行っているが、欠員があり、年々欠員の数も増えて課題となっている。実態として、自治会長本人や配偶者を推薦せざるを得ない現状もある

ことを理解してもらいたい。また、今後の公民館主事の選任の方法について説明を受けたが、主事の立場を明確にする必要があると感じている。公民館は地域活動において重要な役割を果たしていると思うが、地域と公民館の連携においては主事がキーマンとなっていると思っている。現状に即した対応をお願いしたい。

【事務局】会計年度任用職員の関係で、公民館主事の採用の仕方も変わり公募での採用となるが、館長や自治協議会の会長にも選考に加わっていただけるような仕組みづくりを行っていきたいと考えている。

【委員】公民館が地域活動の窓口になっていると思っている。公民館のサークルなどに参加した人に地域活動の説明などをしてもらい、地域活動に参加するきっかけになっていると感じている。

【事務局】地域カフェが開催されるようになったのも、地域と公民館が連携して開催されているからであり、非常に大きな役割だと思っているので、地域の皆さまのご意見を伺いながら検討していきたい。

【委員】民生委員については、定年延長のお願いもしているのですが、早期に対応してもらいたい。

【事務局】民生委員の役割が、超高齢社会の対応や児童虐待など、ますます重要になってきている実態があることは認識している。

【委員】民生委員には、交通費だけではなく報酬を支給することも必要と感じている。

【事務局】保健福祉局でアンケート調査を行っているところであり、そのような意見もあるのではないかと考えているので、重要な課題と受け止め保健福祉局とも話していく。

【事務局】自治会長などが自治会への加入の勧誘に行ったときに、自治会は何の位置づけもないので、根拠となる条例のようなものがあれば、加入の勧誘もしやすいという声もあり、30年度に実施したアンケートの中でも伺っている。

【委員】勧誘に行ったときに、何のメリットがあるのかと聞かれることもある。

【事務局】他都市では、自治会活動等に参加することを努力義務として定めているところもあるので、効果があるのかなど調査したうえで、今後も持続できる自治組織のために検討していく必要があると考えている。

【委員】自治会費を徴収しているのに、用途を示していないことも加入が減っている要因にもなっている。きちんと何に使っているのか示すことも必要なのではないかと。

【事務局】自治会活動等の参加の努力義務を作れば、自治会等の会計や運営の透明化を図ることも必要と考えている。

「地域のまち・絆づくり検討委員会」からの提言の中にも、顔の見える関係づくりなど

では、楽しそうな活動を見せることが大切と記載があり、地域カフェなどの取組みを広げているが、決定的に加入者が増えたなどの実績には至っていない。

【委員】URなどは全国的に自治会等への未加入が課題となっているが、中には高齢の一人暮らしだから自治会にお世話になることもあるという事で、個人的に隣の自治会に会費を払っているような人もいる。

【事務局】URには引き続き、働きかけを行っていく。

【委員】地域の絆応援団があるが、企業と取組みをやろうと思っても、企業等が少ない地域もある。一緒にやりたいと思っても相談に行く企業等もないので、そういうところにはバックアップしてもらいたい。

【委員】地域の活動に出ていく企業も増えてきていると感じている。人を採用するためには、何をやっている会社なのか地域に知ってもらう事が重要と感じられている。

【委員】銀行の支店は、IT化が進み意義がなくなってきているので、地域とのつながりが重要だと認識されている。

【委員】やはり地域の中で一番人が集まる場所と言えば公民館だと思うので、公民館に行くことで企業と地域がつながることができるのではないかと。

【委員】公民館はあまり外に出ることがない。公民館に来られればつなぐ事もできるが、こちらから行くことがないので、どこに行けばいいのかわからない。

【委員】地域のまちづくりに10年関わってきたが、ある地域では10年間役員が変わっていないところもある。また、この10年間で公民館の取組みも変わってきており、大学も地域活動の最前線ととらえ公民館に関わってきたので、企業が公民館に関わることも可能だと感じる。一方で、地域の方は依然旧体制のところが多く、新しいコミュニティ体制を目指す必要があると感じている。そのためには、今も大学などが携わっているが、もっと企業などもコミュニティに携わる人材を増やし、改革していく必要があるのではないかと思っている。他校区で地域活動をやっている人たちや外の力を活用して、改革していった方が良いのではないかと。

【事務局】新しい人たちが加わる仕組みづくりは必要だと感じている。地域活動をやっている人たちも、今までの延長ではだめだろうと気づいていても、打つ手がわからないというのが現状ではないか。

【委員】地域の現状としては、若返りを図りたいと思っても、以前は60代で退職して地域に入ってきていたが、現役の年代が上がり、今はその意識がなく、なり手がいなくなっている。

【委員】市の職員も、地域活動に参加していない。やはり若い世代は、平日は遅くまで働

いて、土日ぐらいは家族とゆっくり過ごしたいという意識はあると思う。だから地域の役員は70代が多いのが現状としてある。

【委員】自治会への加入の問題は、日頃から感じている。そこから民生委員の担い手の問題などが生まれていると思っている。加入問題については、URなどもすぐには対応できないと思うが、対話し続けることは必要。みんなが関心が高いのは災害時であり、そのようなタイミングを見計らって話をしてみるのもいいのではないかと思っている。活動が活発な自治会などは、役員の方々が楽しそうな顔で活動していたのが印象的だった。活動を実践することは、きついこともあると思うが、やはり自治会長や自治協議会長が楽しそうに活動しているところを見せることが大切だと思っている。

— 了 —